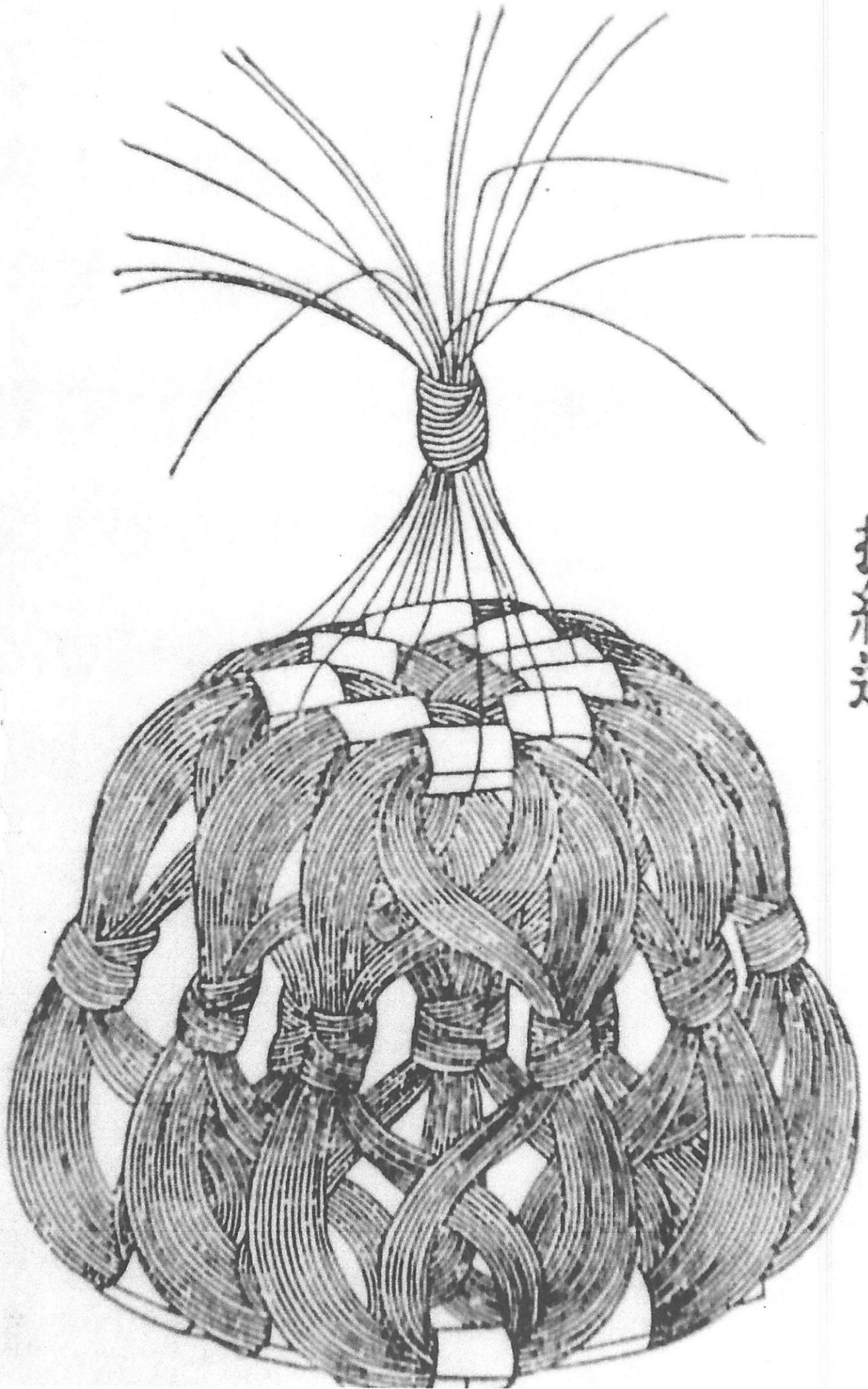


日本初の輸出生糸は上田から

—上田藩と城下商人—

阿部勇





提絲造

1 上田藩主松平忠固

忠優—安政4年、忠優から忠固に改名

・天保元年（1830）上田藩主となる

【江戸幕府の老中として】 老中職を2回

・嘉永元年（1848）～安政2年（1855）

老中首座—阿部正弘

・ペリー来航（安政6年）1853

海防掛に加わる

開国を主張—朝廷主導でなく幕府主導で

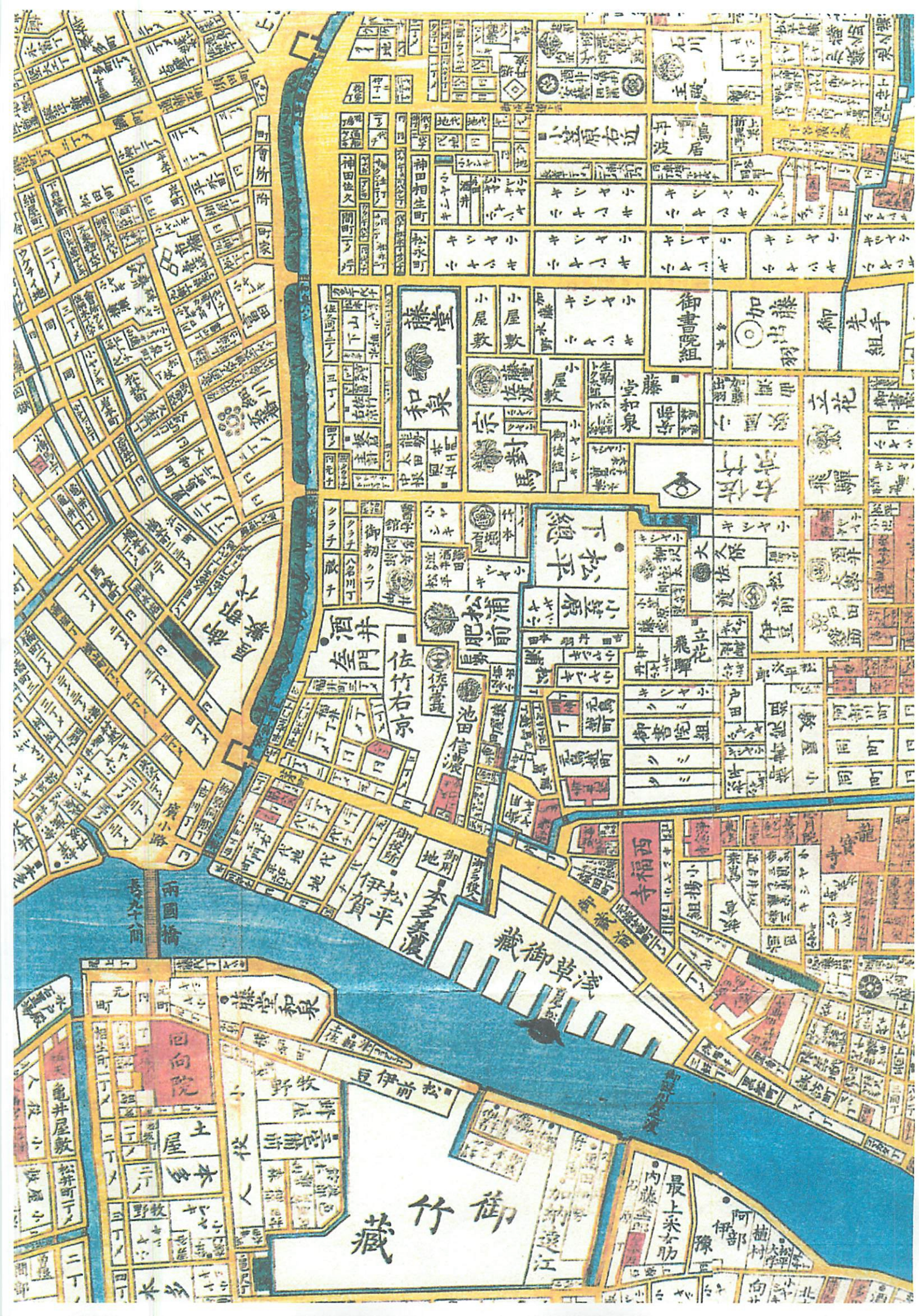
・安政4年（1857）～安政5年（1858）

老中首座—井伊直弼

忠固は貿易の開始を主張・・井伊直弼

は勅許を待たず「日米修好通商条約」

を締結 ←松平忠固の強力な進言



御竹藏

御草浅藏

寺福西

回向院

伊前豆

最上采女
内藤

阿部

兩國橋

佐竹右京

下松平

御書院組

先手組

立花

飛騨

酒井

伊豆前

同町

同町

同町

同町

同町

同町

同町

同町

藤堂
和泉

松浦前
肥田

池田信濃

伊賀平

藤堂和泉

野牧

木多

小屋敷

小松

酒井

伊賀平

藤堂和泉

野牧

木多

小松

小松

酒井

伊賀平

藤堂和泉

野牧

木多

小松

小松

酒井

伊賀平

藤堂和泉

野牧

木多

小松

小松

酒井

伊賀平

藤堂和泉

野牧

木多

小松

小松

酒井

伊賀平

藤堂和泉

野牧

木多

小松

小松

酒井

伊賀平

藤堂和泉

野牧

木多

小松

小松

酒井

伊賀平

藤堂和泉

野牧

木多

小松

小松

酒井

伊賀平

藤堂和泉

野牧

木多

小松

小松

酒井

伊賀平

藤堂和泉

野牧

木多



西御丸

此也大小棒行於
手兵並盡美矣
者猶有所憾焉
固其所也嚮也
製為得余

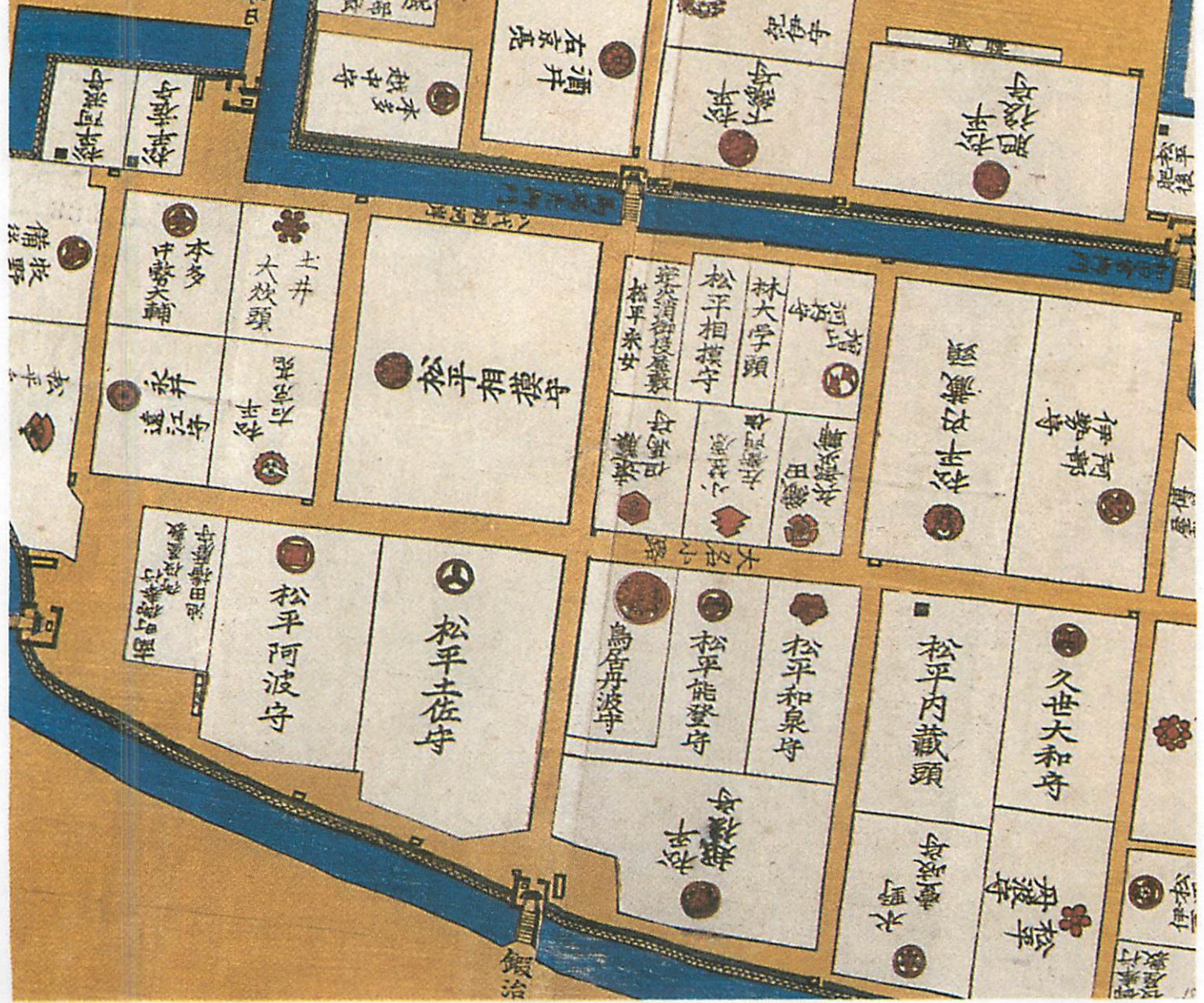
五六箇所
以珠為可憾焉

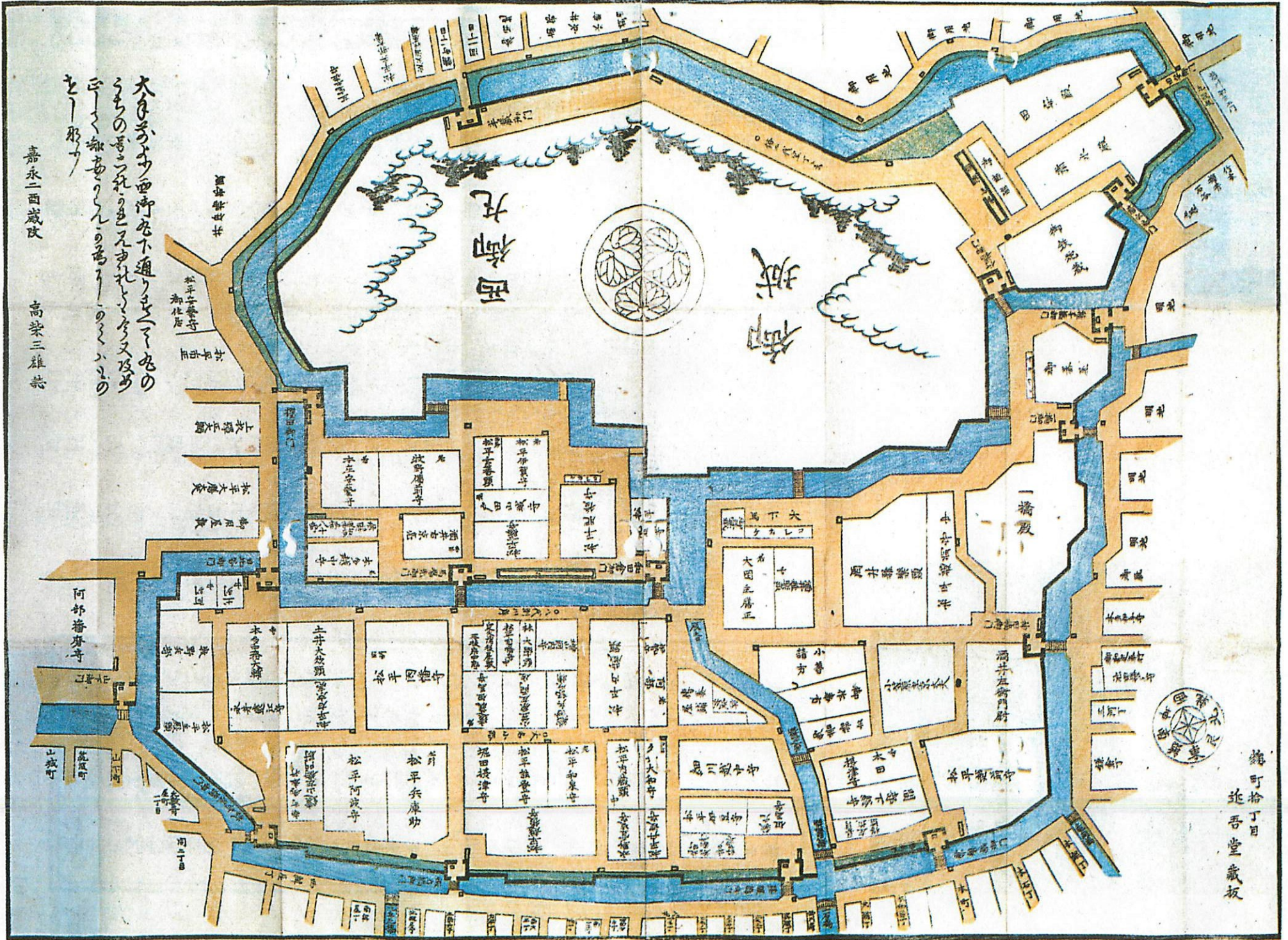
斷區別全圖
方向審市街

祠佛利橋梁阪堤悉錄不遺以欲教見
而已矣豈敢云蓋善哉乎如有遺罔者

四年春三月

景山致恭識





錦町拾丁目
近吾堂藏板

大石少将の西御丸下通りをくぐる丸の
ころの道に花をえられたり又及び
一丁一丁の道ありしものありしものありしもの
と一形なり

嘉永二酉歳改
高榮三雜誌

【上田藩主として】

上田領内の産業振興に力を入れる

○特産物の生産製造を奨励

- ・天保4年（1833）産物改所の設置
- ・安政4年（1857）産物会所の設置

上田領内の産物はもちろん
他所（上田藩外）の産物も
江戸等で販売

○外国へ輸出する上田の特産物

生糸・絹織物・木綿・真綿・麻・漆・
生蠟・紙・傘・石炭油・松油・麦粉・
人参・鉛・鋸・鍬・煙草（主要産品順）

幕末の国際情勢をいち早く知る立場
にあった忠固は、産業や貿易の振興に
よって、上田藩の財政難を立て直そう

2 上田藩と中居撰之助

=中居重兵衛・・・安政6年上田藩と

1月 上田藩江戸会所主人、中居を訪問
「神奈川交易」について下交渉

2月 中居撰之助、上田藩江戸屋敷へ
家老岡部志津馬ら重役同席
「産物方御用達」を仰せつかる

3月 上田城下、原町鼠屋伊藤林之助ら
と中居が「神奈川交易」交渉開始

4月 中居の横浜「地所」30間×40間

5月 輸出する上田特産物の決定（前掲）

6月 横浜中居屋に、上田特産物を展示
イギリス商人と生糸輸出交渉

7月 上田生糸海外へ・英吉利→仏蘭西

3 上田城下原町の商人

藩命を受け江戸・横浜へ

鼠屋伊藤林之助らは、中居撰之助と
上田特産物の輸出をめざして活動

以下、鼠屋伊藤林之助【出府日記】より

2月28日 林之助、島屋町田吉五郎と
上田城下を出立

3月 4日 林之助ら、家老岡部志津馬
ほか、藩重役と顔合わせ

9日 神奈川交易の願書を
外国奉行へ提出

27日 芝金杉片町の中居撰之助
宅を訪問、「神奈川交易」と
「地所」について交渉開始

・
・
・

江村の海に遊ぶ可なり

十七日

○ 後夜に久し久しと行ふ

○ 天利等外に思ふ事あり

○ 月次を木と地河の事あり

○ 冬より南行遊事あり

○ 冬より北行遊事あり

十八日

○ 横濱に参りて遊事あり

○ 参りて中法庵に供物を納む

十九日

○ 参りて遊事あり

○ 参りて遊事あり

英和十のまゝいりてゐる人々

○武蔵のたゞのまゝの所長侯爵の
参りし也

○江戸のむかしはのりも

ちり

○江戸のむかしはのりも
○物産のまゝの上り人々

○江戸のむかしはのりも
○物産のまゝの上り人々
○江戸のむかしはのりも

○江戸のむかしはのりも
○物産のまゝの上り人々

○江戸のむかしはのりも
○物産のまゝの上り人々

○アメリカの上り人々

○江戸のむかしはのりも

江戸

林之助ら、江戸から横浜へ

6月18日 横浜の中居屋開店準備に
19日 中居屋開店・・・朝一番の
客はイギリス商人、上田生
系に注目・・・商取引開始
以後、横浜から海外へ上田提系（生系）
が欧州へ大量に輸出される



【上田藩が中居撰之助を指名した理由】

○丸子飯沼村の吉池文之助の
生系取引が基にある

・飯沼村の医師松田玄冲が
中居撰之助と火薬の製造販売で結
ばれていたことから始まる

【火薬から生系へ】



